

# 鉄道「石北本線」の存続をアピール

## 北見F1玉ねぎ 無料配布 札幌三越前 街頭宣伝 活動報告

令和5年10月4日  
石北沿線ふるさとネットワーク



令和5年10月3日午前10時より、札幌三越前歩道でタマネギの無料配布をしながら石北本線存続アピール街頭宣伝活動を行う。用意した玉ねぎの480袋（JAきたみらいF1玉ねぎ・2玉とネームカード）とチラシ500枚を90分程で配り終えた。ポスターやノボリを携え、多くの人々に私たちの思いを伝えた、そして人々の色々な声を聞いた。

## 鉄道「石北本線」の存続をアピール

鉄道での物流や人々の移動は私達の暮らしに欠かせないこと



手渡したチラシ

タマネギ列車は石北本線を走行するコンテナ貨物列車で、タマネギやジャガイモなどの農産物を消費地に届けています。トラックの運転手不足が社会問題になっています。その解決手段として、貨物列車は重要な輸送ツールです。

石北本線 タマネギ列車 相内駅 2022 (R4) 年1月20日 撮影：山崎澄夫

### 北見F1玉ねぎ 無料 配布

今回配布した「北見F1玉ねぎ」はJAきたみらい農業協同組合様より無償でご提供を戴きました  
札幌市中央区南1条西4丁目駅前通り歩道（札幌三越前）  
令和5年10月3日（火）午前10時より 先着 450名さま

主催：石北沿線ふるさとネットワーク お問い合わせ 090-9524-9315（長南）

## ① 鉄路の行方

### 石北線存続訴え 札幌で街頭啓発

#### タマネギでアピール

JR石北線の存続に取り組み市民団体「石北沿線ふるさとネットワーク」（北見）は3日、札幌市中央区で街頭啓発した。北見産のタマネギ900玉を通行人に無料配布し、JR北海道が単独では維持困難とする同路線の存続を訴えた。

石北線（新旭川―網走、234キ）はJRが単独では維持困難として、地元負担を前提に存続を目指す赤字8区間（通称・黄色線区）の一つ。同区間の北見―新旭川間では臨時貨物列車（通称・タマネギ列車）が運行している。

通行人に北見産タマネギを配り、石北線の存続を訴える市民団体の会員ら



転手の残業規制強化に伴う人手不足が指摘される「2024年問題」に触れ、「貨物列車は問題の解決手段としても有効だ」と呼びかけた。タマネギを受け取った石狩管内当別町の無職男性（63）は「鉄路が廃線になれば寂しい」と話し、活動に理解を示していた。

同ネットワークの逢坂信治・石北本線利用副部長（83）は「札幌圏の人にも問題意識を持ってもらうきっかけになれば」と願っていた。（今井潤）

R05.10.04

逢坂信治

北海道新聞（5面 総合） R05/10/04。またSTVのドサンコワイド179では「なぜ？札幌でタマネギ無料配布」と云う、特別番組がR05/10/03午後6時38分から6分間放映。



北見から現地入りしたメンバーで記念撮影。午前中の街宣のあと、午後は日本貨物鉄道（株）北海道支社を表敬訪問、総務部長・グループリーダーと懇談、プロジェクトの説明と今後の情報共有をお願いする。

### 編集後記

今年春からプロジェクトが始動。何度かの試行錯誤を得てその概要が決定し、多くの皆様のご支援やご協力を戴き、札幌で行動の日を迎えることが出来ました。支えて戴いた皆さんへの感謝の気持ちでいっぱいです。

事前に札幌方面中央警察署から取得した道路使用許可証を携え、前日現地入りした私たち6名と地元から水上札幌市議ほか3名が応援に駆けつけ、総勢10人での札幌行動です。10月2日、特急オホーツク4号で北見を出発、札幌で一泊、翌日、札幌三越前で玉ねぎの無料配布と街宣そして日本貨物鉄道（株）北海道支社を表敬訪問し、10月3日、特急オホーツク3号で札幌を出発、夜遅く、充実した疲れを感じながら北見に帰着。

本報告の後、街頭で聴いた皆さんの声をテキストに起こし、いずれかの機会に、発表したく考えています。

（石北沿線ふるさとネットワーク 石北本線活用副部会長 逢坂信治 記）